

I 実践

1 研究主題

人権を尊重しようとする心情が深まる人権教育の在り方

～道徳の時間や総合的な学習の時間、特別活動を通した心豊かな生徒の育成を目指して～

(1) 主題設定の理由

本校は、「一人一人が輝き 仲間とともに未来を拓く 心豊かでたくましい生徒の育成」を教育目標に掲げ、「自ら学び、考え行動し、課題を解決できる生徒」「他者を理解し、思いやりのある生徒」「体を鍛え、たくましい心と体をもつ生徒」を目指す生徒像としている。その中でも、「他者を理解し、思いやりのある生徒」が人権教育と直接関わりのある目標であり、それを受けて、本校では、「思いやりの心をもって接することのできる生徒」「あいさつ・返事・清掃がしっかりできる生徒」「自己有用感がもてる生徒」の育成をめざした取組を『学校教育プラン』の中に位置付けている。

本校は、全校生徒130名の小規模校であり、生徒同士の関わりが密である。反面、不用意な発言や態度がもとで、相手が傷つき孤立しがちになり、人権を意識しない事例も見られる。これは、人権とは何かを考える機会が少なく、相手を思いやるお互いを尊重する態度が育っていないことにも起因している。

本校の生徒の実態からも、「支持的な風土の学校」をつくる重要性が増しているといえる。それには、共感的な理解を基盤とする生徒の育成が不可欠であり、「相手の身になって考え、相手のよさを見つける」「お互いに協力し合って自分の力を地域社会や学年学級に役立てようとする」「学校・学年・学級が一人一人の生徒にとって存在感を実感できる」ことが大切である。そこで、本校の実態をもとにお互いの人権を尊重し合う学校づくりを進めるために本主題を設定した。

(2) 研究のねらい

各教科、道徳、特別活動等の教育活動全体を通して、人権教育の充実を図り、人権尊重の精神の育成を目指す。

(3) 研究内容

ア 学校行事やボランティア活動、福祉体験等の体験活動を通して、人権尊重の精神を育む。

イ 人権感覚や人権意識を育み、一人一人を大切にした学級経営を行う。

ウ 人権に関する実態調査を実施し、生徒への指導・援助を行う。

2 実践内容

(1) 基底的指導における実践

ア 生活委員会や生徒指導部を中心に、「あいさつ運動」や「さわやかマナーアップ運動」を1年間を通して行った。特定の人だけでなく、誰にでも明るく元気にあいさつできるように朝の登校時間を中心に取り組んだ。

イ 人権尊重のポスターを掲示し、人権意識の啓発を図った。

ウ 人権作文や書道コンクール等に応募し、人権について考える機会とした。

エ 友人関係の実態把握、生活アンケート調査やQ-Uテストの分析・活用を行った。

(2) 道徳の授業における実践

ア 実践例 1年

(ア) 資料名 「心をつなぐバス」(東京書籍)

(イ) ねらい 他の人々に対し思いやりと感謝の心をもって接することが居心地の良い温かい雰囲気を作ることに気づき、温かく人に接しようとする態度を育てる。

(ウ) 内容

本資料には、バスの運転手の温かさや少年と運転手の心の交流に触れて、少女の心が変化していく様子が描かれている。運転手の思いやりが少女の心を満たし、周囲への優しさ・思いやりとして伝わっていくことに気付くことができる資料である。

(エ) 活動の様子

バスの中が温かい雰囲気に変わっていく過程に焦点を当て、運転手の優しい言葉と、それに対する少年の感謝の言葉によって心が繋がり、温かい雰囲気になっていくことを感じ取らせ、感謝と思いやりの心情の育成を図った。

終末では、思いやりと感謝の心の例として、この学級の体育祭のできごとを取り上げた新聞記事を読み上げ、余韻を持たせた。

(3) 総合的な学習の時間における実践

本校の総合的な学習の時間のテーマは、「キャリア教育」である。キャリア教育の内容の中で人権教育と結びついた内容もいくつか実践している。各学年の発達段階や生徒の実態を考慮するとともに、3年間を見通した活動内容を決めている。

ア エコサイクル（平沢学区内の再生資源の回収活動）＜全学年＞

（ア）目的 地域での回収活動を通して、働くことの意義について考えさせ、奉仕の心や他の人と協力し合う態度を育てる。

（イ）内容 グループでの回収活動（新聞紙、雑誌、段ボール、空き缶等）や積み込み等

（ウ）活動の様子



エコサイクルでは、JRC委員会の計画のもと、異学年グループによる地域での回収活動を通して、お互いに協力し合いながら大量の新聞紙等の再生資源の回収活動に取り組むことができた。また、地域の人から回収活動中に「ご苦労様」と声をかけられるなど働くことの大切さに気付き、奉仕する心や協力し合う態度を育てることができた。

イ 独居老人宅への訪問活動 ＜2学年＞

（ア）目的 独居老人宅への訪問活動を通して、心豊かな生徒の育成を図る。

（イ）内容 宿泊学習での田植え体験を通して収穫された新米を、グループごとに学区内の独居老人宅へ届け、高齢者と交流を図った。

（4）仲町交流センターと連携したボランティア活動の実践

ア 仲町交流センターと連携した仲町学区ボランティア活動 ＜全学年＞

（ア）目的 積極的に福祉体験的な活動に取り組むことで、心豊かな生徒の育成を図る。

（イ）内容 5月18日（土）～10月27日（日） 計11回

除草作業、通学路清掃、高齢者との交流、防災訓練、仲町学区祭りなど

（ウ）活動の様子



毎回多くの生徒が、仲町交流センターと連携した仲町学区ボランティア活動に積極的に参加し、さまざまなボランティア活動に熱心に取り組むことができた。学区ボランティア活動を通して、奉仕する心や協力し合う態度の変容が見られた。

3 成果

人権意識の高まりを強く感じた場面は、本校の体育祭や文化祭「桐葉祭」での輝くばかりの生徒の活躍する姿である。生徒一人一人の心が一つになった、女子全員による応援合戦や男子全員によるグランドボーイズ、クラス対抗の合唱での美しいハーモニー。一人一人の個性と存在を最大限に尊重し、認め合った瞬間の感動がグランドや体育館で共有された。

II 今後の課題

生徒に人権感覚を身に付け、人権意識をはぐくむ人権教育の推進を図るために以下の課題があげられる。今後も教育活動全体を通して、人権教育の充実に向け継続的に取り組んでいきたい。

（1）教育活動全体を通して、互いの人権を尊重し合い明るい社会を築いていこうとする生徒の育成を図る。

（2）教職員自らの人権に関する理解と認識をさらに深め、指導力の向上を図るために研修の充実を図る。

（3）家庭・地域社会に対する人権課題の正しい理解と啓発活動を図る。